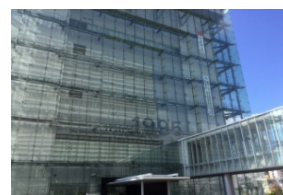


## 人と防災未来センター

大阪に住むようになり、文字通り「京阪神」というように京都や神戸、そして奈良に気楽に出かけるようになった。名古屋時代と比べ、なんだか行動範囲が広がったようだ。この「アクセス・メリット」を活かしていきたい。

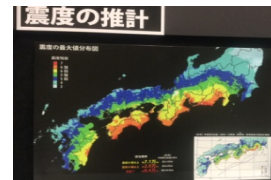
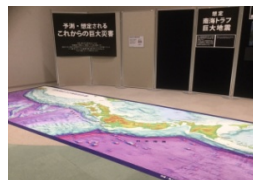
神戸に出かけたとき、久しぶりに「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」まで足を伸ばした。JR 神戸線・三宮の手前の灘駅で降り、そこから海岸の方に歩いた。足を伸ばしたというより、途中下車して「寄り道」した感じだ。勘違いして、兵庫県立美術館をぐるりと回り、センターにたどり着いた。建物を見上げると、壁面に南海トラフ巨大地震の最大津波高の想定 34.4m が表示されていた。津波の高さに驚くばかりだ。



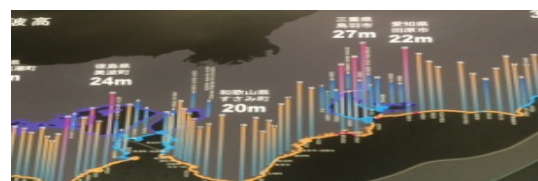
4階に上がり 1.17 シアターで「5:46 の衝撃」を観て、阪神・淡路大震災の地震の凄まじさ、恐怖を体感する。何回も観てきたが、地震の怖さが体に伝わってくる。大震災ホールで「このまちと生きる」を観て、復興の歩みを振り返る。3階に下りて、写真のような数多くの震災の記憶に思いを巡らす。



この夏から東館 3F フロアに新コーナーがオープンしたようで、連絡通路に向かい、風水害の脅威を映像で観る。1938 年の阪神大水害を撮影した貴重な動画、巨大地震による津波の脅威ガイダンス映像である。阪神大水害の動画は初めてだ。次に津波避難体験コーナーがあり、水圧がかかる中での歩行がいかに困難かを体感する。ただし水は出ない。



南海トラフ・首都直下地震展示コーナーも、これから発生が懸念されている大規模災害の脅威をビジュアルに伝えている。とりわけ南海トラフ地震と津波の展示を見ていると、大阪や名古屋などでの甚大な被害が心配になる。自治体の防災への取り組みギャラリーを見て、新コーナーをあとにした。



1階に下りて、こころのシアターで、3D 大型ドキュメンタリー映画「大津波 3.11 未来への記憶」を観る。広い会場だが、観客は私と若い女性だけ。東日本大震災による大津波と被災地各地を丹念に取材し、3年余りにわたって記録したものだ。

久しぶりに人と防災未来センターに来て、1995年の阪神・淡路大震災、2011年の東日本大震災、そして懸念される南海トラフ地震の脅威に思いを馳せた。ベトナムからも大勢の人が来ていたが、国内外の多くの人にぜひ観てもらいたい。新コーナーを含めて、震災の記憶と記録が、ビジュアルに展示してあり見応えがある。また訪れたい。

(2018年11月15日)